

J-SHINE小学校英語上級資格者
公立中学校英語科教員を結婚退職の後、自宅でKiddy
CAT英語教室ラベンダーキッズを開校。
現在は教室を主宰しながら、地域の小学校で神戸市イン
グリッシュサポーターとして英語活動をサポート。公立中学
校で初任者指導非常勤講師としても活動中。

J-SHINE 通信

2015年7月号



林由香さん

今回は民間英語教室を主宰されながら、『担任の先生の思いに寄り添う』を
モットーに小学校英語活動の支援者として、また中学校では非常勤講師と
して活動され、小・中連携の英語教育を目指し日々活動されている林さん
の実践報告です。

■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

私の場合は(株)アルクのKiddy CAT英語教室を開校してい
たこともあり、J-SHINEの資格はかなり初期の段階で取得しま
した。小学校に関わりだしたのは2002年、わが子が小学校
に入学した年に地域英語ボランティアを小学校が募集したのが
きっかけでした。その後、2005年から本格的に授業のお手伝
いをするようになり、毎年1つの学年を担当して担任の先生
のお手伝いをさせていただいています。

■ 現在の活動状況、学校現場の様子

6月号の倉田先生から神戸市立桂木小学校での活動は7月
に、とバトンを受けましたので、ここでは主にそのことを書かせ
ていただきます。

桂木小学校では毎年3~4名のサポーターが関わる形で外
国語活動を行っています。

3-4年生は年間25時間、5-6年生は年間35時間のうち
ALTの先生が来られない時間に私たちが担任の先生方のサ
ポートに入ります。平均して年間26-27時間。学年により3~
4つのクラスを担当します。年度末に次年度の相談をし、曜日
や担当学年が決まります。

今年度は3人なので3-4年生を倉田先生、もう一人の方が
6年生、私は5年生を担当しています。

始まってしまえば、それぞれに各学年の先生方と打ち合わせ
をしながら進めることにはなりますが、年度初めに顔合わせを兼
ねた校内研修会があるので、校内の全ての先生方に英語活動
を体験していただけるような内容をサポーター3人で企画してい
ます。

今年度は年間指導計画を見通したプランの立て方の提案とデ
ジタル教材を使った授業の紹介をさせていただきました。

では実際に5年生でどんなことをしているかですが、まず、
私がサポーターとして大切にしていることは『担任の先生の思
いに寄り添う』ということです。担任の先生は一年を通して『こ
んな学級にしたい』というビジョンをお持ちですから、外国語活
動の中だからこそできることを活かしながらそのお手伝いが出
来ればとても嬉しいです。

とは言え、学校で打ち合わせをする時間はほとんどありませ
んから、プランの打ち合わせはメールでのやり取りが主になり
ます。5年生は3クラスなので、プランを立てる先生だけでなく3
人全員でメールを共有していただいています。

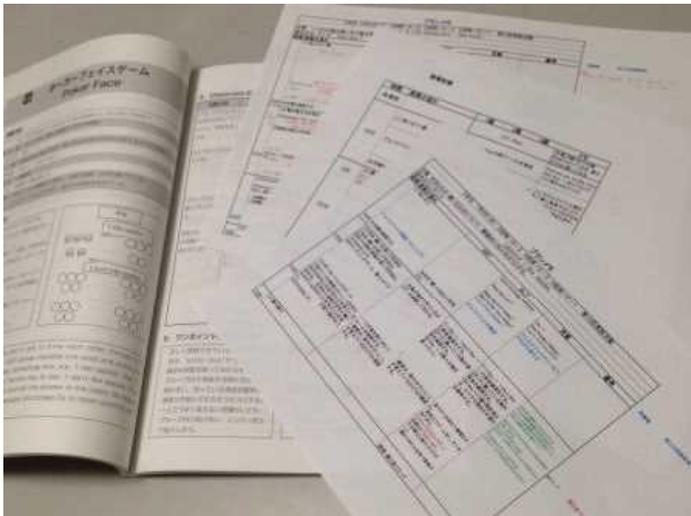
今年度は木曜日が授業なので、授業終了後、金曜日の放
課後までに授業記録を書き込んで送っておくと、金曜日の学年
会議で相談してまた次のプランを週末までに作成してございま
す。土日の間に気がついたことやアクティビティーのアイデア等
参考にしていただけそうなことを書き込んで返信。これを見て
修正したものを再度水曜までに送っていただいて木曜日を迎え
ます。

プランを立てた先生のクラスが初めになるので、やってみて
修正が必要なところは相談しながら次のクラスに引き継ぎます。
それぞれの先生が大切にしていられることがあるので、同じ
プランでも活動の膨らませ方は各担任の先生の良さや強みが
生かせるようなお手伝いを心がけています。

これほど密にやり取りができているのは、これまでのお手伝
いの中でも今年が最高ですが、これも先生方の思いがあつてこ
そ。決して英語が得意だと思っていられる先生ばかりでは
ないのですが、より良い英語活動をしたいと思っておられる5
年生の先生方の熱意に動かされています。

メールのやり取りの中で不安を打ち明けて下さったりもします。例えば、Classroom English。使ってみたいけどなかなか・・・という声があったので、プランの中に使えそうな簡単なひと言を書いてみたら、毎時間チャレンジしてくださっています。この積み重ねが1年後に大きな自信につながることはまちがいありません。

このように先生方の思いも受け止めて、先生ご自身にも楽しんでいただけるような活動を提案していくこと、担任の先生方が自信を持って子どもたちの前に立てるよう応援すること、それがまさに私たちサポーターの醍醐味ではないかと思えます。



先生とやり取りをしているプランメモと授業記録

■今後の展望、課題、目標

小学校と中学校の両方に関わっているため、小学校英語活動のその後の姿を目の当たりにしていますが、特に『聞いて理解する力』や『聞いたものを言う力』は素晴らしく伸びてきています。そういう小学校で身につけてきた力を活かし、確かな力にするためにも、小中連携の大切さを日々痛感しています。

『つながりが生かされる』ことを意識して授業を組み立てる。ひとつひとつのことが打ち上げ花火的に終わるのではなく、1時間1時間の活動と活動のつながりや、年間の流れの中でのつながりを授業に持たせることで、学年を重ねるにつれ『出来ること・分かることが増えて行く喜び』を味わえるようになります。他教科では当然されていることですが、慣れない外国語活動を相手にすると、ともすれば忘れられがちになる部分でもあります。これを小学校から意識していくことで、中学校への確かな橋渡しができるとういふなあと思っています。

今回ご紹介させていただいたように私がお手伝いをしている小学校は英語活動に積極的で、活動をサポートする地域人材も複数いますが、市内のどの学校も同じか、というところではありません。

公教育なのでその辺りをもっと充実すればいいのになあ・・・ということも日々、切に思います。

そのためにも私たちの活動がボランティアではなく、きちんとした公教育のひとつの仕事として位置づけられる日が来ることを心から願っています。

* J-SHINE 通信 Web ページ

この2015年7月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>

